空きビル改装 街に活気

北九州に専門会社 間取り変更、低料金で

北九州市 50年
今日まで 明日から

人口減や経済活動の停滞で、オフィスビルの空室率が20%に迫る北九州市小倉北区の中心部。そこで空きビルに、使用目的に合わせて間取りを変える「リノベーション」の手法で、命を吹き込む試みが動きだした。地元に縁のある建築士や大学の研究者らが、この手法を活用したまちづくりの専門会社「北九州家守舎(やもりしゃ)」を設立した。資金力がない人でも店や事務所を持てるようにする狙いもあり、街ににぎわいを呼び戻す起爆剤になれるか注目される。

家守舎が目指すモデルケースが、JR小倉駅近くの「中屋ビル」にある。昨春、約2年間空いていたビルの2階部分(約300平方㍍)は洋服や雑貨、アクセサリーなどを扱うおしゃれな商業空間「ポポラート三番街」に生まれ変わった。

「ポポラート」はイタリア語で人が集まるという意味。ワンフロアは約3~15平方㍍に仕切りが施され、20の店や工房が入居した。クラフト作家の吉井郁恵さん(29)は、約3平方㍍の工房で制作販売する。賃料は月額1万3千円。「低予算で活動拠点を持てて助かる。都心なのでお客も来やすい」。工房を持ったことで出版社から認められ、念願の作品紹介の本を出せたという。

小さな雑貨店や洋服店が並ぶ「ポポラート三番街」で街再生への思いを語る嶋田洋平さん

リノベーションは建物を大規模に改修し用途を変えたり、機能を高めたりする手法。東京では空きビルにギャラリーを出店させる試みで芸術家が集まる地区が誕生するなど、注目度は高まっている。

◇　◇

中屋ビルを再生させたのは北九州市出身の嶋田洋平さん(36)。市内の高校を卒業後、上京し大学院を経て建築設計会社に入社。5例のリノベーションに携わった。5年前に独立し都内で建築事務所を開設した。

何度も帰郷し、故郷のビル改修を手掛けたのは「街の活気が薄れていくのが寂しかったから」。高校時代によく通った小倉駅近くの映画館は閉鎖され、帰省のたびに人の往来が減っていくように感じていた。

不動産仲介の三鬼商事福岡支店の調べでは、北九州市小倉北区中心街でオフィスビルの空室率は1991年の約1・4%から、2012年には約16・3%に上昇。福岡、熊本両市よりも4㌫以上高い。店舗などが入る商業ビルの空室も増えていると北九州市はみている。

◇　◇

家守舎立ち上げのきっかけは、昨年2月に市内であったリノベーションの勉強会だ。「もっと、街に人を呼び込みたい」「若者がチャンスを得る場所をつくりたい」。参加した嶋田さんや起業支援のコンサルタントなど4人の思いが交わった。

昨春、4人が出資して家守舎を創業。メンバーの北九州市立大准教授で都市計画が専門の片岡寛之さん(38)は「論じるだけではなく、行動しないと街は良くならない」と説く。

昨秋には事業第1号として、小倉の中心街の空きビルをフリーライターなどの共有事務所に変えた。家守舎について、市新産業振興課は「空きビルは多いが、人が集まる潜在力はある。それを生かした先駆的な試みだ」と期待する。嶋田さんは「利益が出れば街に還元する。理念を共感できるビルオーナーがいれば、二人三脚でどんどん事業を展開したい」と意欲を見せた。(大坪拓也)

信金立てこもり 起訴内容認める

愛知、人質事件初公判

昨年11月、愛知県豊川市の豊川信用金庫蔵子支店で起きた立てこもり事件で、人質強要処罰法違反などの罪に問われた住所不定、保浩二被告(33)=名古屋地裁豊川支部=(長橋政司裁判長)の公判で、起訴内容を認めた。

検察側の冒

体罰調査 学校別に公表

武雄市長 市教委に「無らい県」

文部科学省の通知を受け全国の教育委員会が実施している体罰の実態把握調査について、佐賀県武雄市の樋渡啓祐市長は、学校別の調査結果を公表したい考えを示した。樋渡市長は日の自身のブらかにした。公の実施主体で教委の判断にており、浦郷窓「何らかの形

熊本で5月「ハンセン病市民学会」

官民挙げ強制隔離

記者会見で市民学会への参加を呼志村康さん=6日午後2時すぎ、

福岡地下鉄 優しいマーカー